

10月15日（金）高島市立朽木東小学校を訪問しました！

対談テーマ

これからの教育へのICT環境の有効活用について

ICT機器を効果的に活用した教育活動を実践する高島市立朽木東小学校と高島市教育委員会の取組を見聞き、整備されたICT環境のこれからの教育への有効な活用について対談しました。

訪問した委員

野村 早苗 委員 石井 太 委員



高島市立朽木東小学校について

学校教育目標「心身ともにたくましく、ふる里を愛する人間性豊かな子どもの育成」のもと、自分らしく生きていく力を育む教育活動を進めています。また、平成30年度から先駆けて、タブレット端末を配備し、授業や家庭学習においてICT機器を効果的に活用した実践を行っています。新型コロナウイルス感染症による学校休業の際には、子どもたちの学びを止めないように、朝の会や授業をリモートで実施しました。

意見交換より

委員：ICT機器の取扱いについて、教員の活用スキルの差はあるのか。苦手な先生へのフォローはどのようにしているのか。

学校：研修の実施だけではなく、日常の業務の中で、教員が互いに協力しながら活用スキルを高めている。結果、教員の力量は均質化されてきた。

委員：ICT教育の推進、教育のデジタル化については、教育分野以外からも注目されている。それらの確立に当たっては、教員の業務への負荷も気になるが。

学校：端末のフリーズ、回線がつかない等のトラブルが日常的に発生しているが、機器の扱いが得意な教員がサポートしている。これからの時代、事務職員の関わり方も重要。

委員：子どもたちが楽しみながら授業に参加していた。どのような成果を感じられるか。

学校：授業でのICT機器の活用は、子どもたちの意欲が上がり、集中力が持続する。また、共有や交流等がしやすく、多様性に触れ、気付きを得ながら学習を進めることができる。



滋賀県教育委員会では、学校の夏期休業期間に、教員を対象としたオンライン授業の研修を実施しました。また、「ICTを活用した学力向上推進会議」を開催して各市町の状況や今後の活用に向けた情報交換等を行ったり、各教科等での1人1台端末の活用事例の動画を配信したりするなど、ICT機器を効果的に活用した学びを進めています。